



## 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



### 1. 第1回避難訓練

5限の授業開始早々に緊急放送「緊急地震速報が出されました。強い地震が起きる可能性があります。倒れやすいものから離れ、机の下にもぐりなさい。」…震度4の地震発生…「地震はおさまってきました。先生の指示に従い、すぐにグラウンドへ避難しなさい。」



地震を想定した避難訓練を実施しました。子どもたちは、「お・は・し・も」を意識した行動がしっかりとできましたが、「頭を帽子や教科書等で守ること」については、「しっかりできなかった」と評価する児童が多くいました。



今後、この頭を守ることに、とても嬉しいお知らせがありました。根知公民館の事業として、地域のボランティアの方々が子どもたち全員（職員分も）の防災頭巾を作ってくださいということです。子どもたちが、地域の方々に支え守られていることに感謝申し上げます。



### 2. ジオパークと自然災害についての学習会

フォッサマグナパーク学芸員の竹之内耕様から、ジオパークと自然災害について、お話をいただきました。



冒頭に自然災害の種類を確認し、糸魚川ジオパークの豊かな自然や伝統文化などの魅力に触れながら、ジオパーク特有の自然災害（火山の噴火、土石流、崖崩れ・地滑り、雪崩など）について、とても分りやすく説明をしていただきました。

ジオパークの学習は、地域や災害の学習でもあることをみんなで確認しました。

### 3. 第1回地域防災教育懇談会



#### ①避難訓練について

糸魚川消防本部防災室防災係：小林正広様から、避難訓練に臨む真剣な子どもたちの態度について、とてもよい評価をいただきました。また、今後の課題として、「ガラスが飛散し足もとが悪くなる震度5弱以上を想定した訓練も必要なこと」「低学年の机の脚の握り方が弱かったこと」「頭を保護することが不徹底であった」「児童は黙って静かに行動することがよいが、職員は必要な指示を大きな声でもっと出してもよかったこと」などについてご指摘をいただきました。

#### ②今後の取組について（意見抜粋）

- ・現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯など条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。そうした際に、児童との連絡の手段・体制が問われてくる。
- ・避難訓練の事前連絡を児童だけでなく教職員にもせずに訓練を実施したことがある。職員には好評であり、日頃の職員の心構え・意識が高まる。
- ・第2回と第3回の避難訓練に間がある。防災・宿泊体験の経験後に、その経験を生かし、夏休みなどを利用して2～3泊の避難所体験をさせてみてはどうか。
- ・宿泊体験の際の非常食については、市として提供できるものがあるので相談してほしい。
- ・カードゲームを用いた防災学習は、事前説明がないと効果がないものもあるので、検討が必要。

#### ③総括（要約）

市教育委員会指導主事：松縄隆之様から、「防災教育は、“万が一のためではなく、いつ起きてもおかしくない・だれにでも必要なこと”としてとらえたい。そして、自然のすばらしさと恐ろしさを再確認するとともに、ふるさとへの愛着をもたせたい。」「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものになっている。また、被災地では、中高校生が大事な役割を担っている。子どもたちをこの防災教育を通して、これからの担い手として活躍できるよう育ててほしい。」とご指導をいただきました。

